

中国人日本語学習者の「助言」に対する断り行動

——母語での断り行動の分析に基づいて——

Refusals of “Advice” in Chinese Learners of Japanese: An analysis based on their first language refusal techniques

王 源*・山本裕子**

1. はじめに

本研究は日本語母語話者（以下，日本人）と中国語母語話者（以下，中国人）の「助言」に対する断り行動を通して，中国語を母語とする日本語学習者（以下，学習者）がその「助言」をどのように捉えているか，母語での言語行動の違いを踏まえてその一端を明らかにすることを試みるものである。

「助言」は相手のためになるようにと思っの行為であるが，場合によっては相手をいやな気持ちにさせる可能性もあり，配慮が必要な言語行為である。王・山本 (2015) は「依頼」「誘い」「申し出」「助言」という働きかけの異なる4つの発話行為に対し，どのように断り行動が異なるかを考察し，同じ「断り」場面であっても，それぞれの働きかけの捉え方が日中で異なっていることを指摘した。そして，王・山本 (2016) ではこれら4つの場面の中で特に「助言」の場面に注目して，場面の捉え方が異なっていることを示した。「助言」という発話行為は，相手が自分のためを思っしてくれることであるので，本来「ありがたい」ことであり，中国人はそうに捉えている。しかし，日本人は少なくとも調査場面の助言は相手から言われない内容ではなく，自分の領域（私的領域）に踏み込まれたような気持ちになる傾向があることを示した。本研究では，王・山本 (2016) で示した母語での言語行動の相違を踏まえ，学習者が「助言」に対する「断り」行動をどのように実現するか，またその背景にある助言場面の捉え方はどのようなものであるかをみることにする。

* 外交学院外語系副教授 日本語学・日本語教育

** 人文学部准教授 日本語学・日本語教育

2. 調査方法とこれまでの結果

2.1. 調査

筆者らは中上級の中国人日本語学習者 57 名を対象に、以下の表 1 の場面を提示して質問紙調査を行った。この調査は王・山本（2015）で日本語・中国語をそれぞれ母語とする日本人大学生 47 名、中国人大学生 40 名を対象に行った調査と同様の内容である。

表 1 設定した場面

あなたは部活動でとても忙しく、時間をとられ、睡眠も十分にとれないような状況にあります。そのあなたに相手から「この状態が続くと学業にも支障が出そうだし体にもよくないから部活動の時間を減らしたら」と助言がありました。しかし、あなたは部活動の時間を減らしたくないので断りたいです。

助言者が友達であるとき、どのように言うか。また、先生であるとき、どのように言うかを書いてください。

また、質問紙調査の結果を分析し、学習者の断り行動の特徴的傾向が捉えられたところで、なぜそのような行動をするのか背景にあるものを探るため、面接調査を行った。

2.2. 分析方法

熊谷・篠崎（2006）は相手に対する働きかけの機能を担う最小部分を「機能的要素」と定義している。本研究でもこの定義に従い、熊谷・篠崎（2006）を参考に、発話データを機能的要素に分割した。その上で日中断り行動の仕方やストラテジーの選択の具体的な現れを明確にするため、機能的要素の使用、展開パターンと使われている表現形式という三つの観点からデータを分析した。なお、「/」は単位分割点を示し、「〈 〉」には該当する機能的要素を示す。

(1) お気遣いありがとうございます。／少し考えてみます。

〈感謝〉

〈保留〉

3. 記述式調査の分析と結果

本章では、王・山本（2016）の結果と対比することで、学習者の回答の特徴を見出すため、王・山本（2016）で示した日本人、中国人に対する調査結果と併せて、学習者の結果を示す

こととする。

3.1. 機能的要素

まず、全ての回答を単位分割した上で、現れた機能的要素のバリエーションを整理、分類した。本調査場面で回答にみられた機能的要素を表2に示す。

表2 機能的要素の一覧

機能	説明	日本語の例	中国語の例
呼びかけ	相手に呼びかける	先生	老师（先生）
応答	働きかけに対する応答を表す	うん	嗯（うん）
ためらい	ためらいのポーズを表す	んー、まあ	—
意志表明	自分の断りの意志を表明する	大丈夫です	没事的（大丈夫です）、我会注意的（気をつけます）
理由	意向に添えない事情を説明する	代わってもらえる仕事ではないので	我觉得这样挺充实的，（とても充実しているので）
受け止め	相手の働きかけを受け入れる	そうですね	您说得很有道理，（確かにその通りです）
感謝	感謝の気持ちを述べる	ありがとうございます	谢谢您关心（ありがとうございます）
詫び	申し訳ない気持ちを表す	すみません	—
今後への言及	今後のことを言及する	どうしても大変だったらそうします	如果实在吃不消再减少社团活动（もっと大変に成ったら部活を減らします）
気持ちの表明	相手の意向に応じたい気持ちを表明する	ご心配いただいて大変嬉しいのですが	—
気配り	相手に対する配慮を表す	—	请您放心。（心配しないでください）
保留	答えを保留する	考えてみます	我会好好想一下的。（よく考えます）
その他		はい	你也要注意身体哦！（あなたも身体に気をつけてね）

また、この場面において、日本人、中国人、学習者にそれぞれよく使われている機能的要素の使用率を表3に示す。ここで言う使用率とは、ある機能的要素を回答の中で1回以上使用している回答者の数を回答者総数で割って算出したものである。

表3に示したように学習者は日本人と中国人と同様に、いずれも〈意志表明〉と〈理由〉を典型的な要素として用いる。学習者の〈感謝〉の使用率は中国人とほぼ同じで、友人には35.1%であるのに対し、先生には67.9%である。一方、日本人の〈感謝〉の使用率は友人に対しても先生に対しても40%台で、〈意志表明〉と〈理由〉に次いで三つ目に多く使用されている。また、学習者は中国人と同じように、多く使われている〈気配り〉と〈呼びかけ〉

表3 使用の多い機能的要素の上位七つとその使用率（％）

順位	日本人		中国人		学習者	
	友人(N=47)	先生(N=47)	友人(N=37)	先生(N=39)	友人(N=57)	先生(N=57)
1	意志表明 (95.7)	理由 (72.3)	理由 (100)	理由 (84.6)	意志表明 (83.9)	意志表明 (80.4)
2	理由 (66.0)	意志表明 (66.0)	意志表明 (59.5)	感謝 / 意志表明 (66.7)	理由 (64.3)	感謝 (67.9)
3	感謝 (48.9)	感謝 (40.4)	感謝 (29.7)	呼びかけ (35.9)	感謝 (35.1)	理由 (66.1)
4	受け止め (36.2)	詫び / 受け止め (23.4)	気配り (21.6)	気配り (25.6)	気配り / 受け止め (25.0)	呼びかけ (23.2)
5	ためらい (27.7)	保留 (19.1)	受け止め (18.9)	受け止め (17.9)	気持ちの表明 / 保留 (5.4)	受け止め (16.1)
6	今後への言及 (8.5)	今後への言及 (12.8)	代案 / 応答 (8.1)	今後への言及 / 保留 (2.6)	詫び (1.8)	詫び (17.9)
7	気持ちの表明 / 保留 (6.4)	気持ちの表明 (8.5)	気持ちの表明 / ためらい (2.7)	—	—	気配り (14.3)

のうち、〈気配り〉は友人にも先生にも用いるが、〈呼びかけ〉は先生に対してのみ用いている。このように、〈感謝〉〈気配り〉〈呼びかけ〉については、学習者は日本人と異なる用い方をしており、母語での断りに準じて表現していると言える。

一方、〈詫び〉の使い方に関しては、中国人は友人にも先生にも〈詫び〉を使わないのに対して日本人は先生に対してのみ〈詫び〉を用いる。また、「学習者は友人にも先生にも〈詫び〉を用いていたが、友人に対しては1.8%と非常に少ない。よって、傾向としては日本人と同様であると言える。」

以上の学習者の「助言」に対する「断り」行動の機能的要素の使い方については、次のようにまとめられる。

1. 学習者は日本人と中国人と同様に〈意志表明〉と〈理由〉を「助言」に対する断り行動の典型的な要素として用いる。
2. 〈意志表明〉と〈理由〉に次いで、三つ目に多く使用されている〈感謝〉〈気配り〉〈呼びかけ〉については、学習者は日本人と異なる用い方をしており、母語での断りに準じて表現していると言える。
3. 〈詫び〉に関しては、日本人の回答と同様の傾向がみられた。

3.2. 行動展開パターン

次にこれらの機能的要素がどのような順序で用いられているか、回答に現れた機能的要素の生起位置を示す。まず王・山本（2016）に基づいて、日本人と中国人の機能的要素の生起

位置を (2), (3) に示す。

(2) 日本人の断り展開パターン

対友人：〈ためらい〉・〈受け止め〉／〈理由〉・〈意志〉

先頭 ← 〈感謝〉⁽¹⁾ → 末尾

対先生：〈受け止め〉・〈詫び〉／〈理由〉・〈意志〉

先頭 ← 〈感謝〉 → 末尾

(3) 中国人の断り展開パターン

対友人：〈感謝〉・〈理由〉・〈意志表明〉／〈気配り〉

対先生：〈呼びかけ〉・〈感謝〉／〈理由〉・〈意志表明〉／〈気配り〉

先頭 ← → 末尾

学習者の回答の主要な機能的要素を生起した位置をまとめて表4、表5に示す。表4には友人に対する回答の生起位置をまとめ、特徴的な部分を色付けで示した。

表4 友人に対する学習者の機能的要素の生起位置 (回)

位置	感謝	意思表明	理由	気配り	受け止め	詫び	今後への言及
1	16	10	15	0	12	1	0
2	0	25	13	6	2	0	2
3	3	4	7	5	0	0	0
4	1	2	1	1	0	0	0
5～	0	0	0	2	0	0	0

学習者の回答をみると、(4) (5) のように友人に対しては〈感謝〉〈受け止め〉は先頭に用いられやすく、〈感謝〉あるいは〈受け止め〉をしてから、〈理由〉〈意志表明〉と続いている。また〈気配り〉は末尾のほうに用いられる。これは (3) に示した中国人の回答と同様である。

(4) わかつてる。でも私はサークル活動が辞めたくないよ。心配しないで。⁽²⁾

〈受け止め〉 〈意志表明〉 〈気配り〉

(5) 心配してくれてありがとう。でも、部活は自分の選択だし、簡単に部活を減らしたくない。

〈感謝〉 〈理由〉 〈意志表明〉

次に先生に対する回答にみられた生起位置をまとめ、特徴的な部分を色付けで示した。

学習者の回答は、(6) と (7) のように先生には〈感謝〉〈呼びかけ〉をしてから、〈理由〉〈意志表明〉と続く。〈詫び〉と〈受け止め〉も先頭に用いられやすい。そして友人に対する

表5 先生に対する学習者の機能的要素の生起位置（回）

位置	感謝	意思表示	理由	気配り	受け止め	詫び	今後への言及	呼びかけ
1	20	5	4	0	7	7	0	11
2	9	9	17	0	1	3	12	0
3	4	15	12	4	1	0	4	0
4	3	5	3	3	0	0	2	0
5～	2	5	1	1	0	0	1	2

のと同じように〈気配り〉は末尾のほうに用いられる。

(6) どうもありがとうございます。私は大丈夫です。ご心配なく

〈感謝〉 〈意志表明〉 〈気配り〉

(7) 先生、ありがとうございます。心配させてごめんなさい。でも、もうちょっと頑張れま

〈呼びかけ〉 〈感謝〉 〈詫び〉 〈理由〉

すから、先生は心配しないでください。

〈気配り〉

以上をまとめると学習者の断り展開パターンは以下のようになる。

対友人：〈感謝〉	／	〈理由〉・〈意志表明〉	／	〈気配り〉
〈受け止め〉	／			
対先生：〈呼びかけ〉・〈感謝〉	／	〈理由〉・〈意志表明〉	／	〈気配り〉
〈受け止め〉	／			
〈詫び〉	／			
先頭				末尾

図1 学習者の断り展開パターン

〈感謝〉と〈詫び〉〈気配り〉という、相手の気持ちに関わる機能的要素の生起位置をみると、学習者は〈感謝〉〈詫び〉を最初に持ってくるが、〈気配り〉は後ろに持ってくるが多い。〈感謝〉と〈気配り〉の位置は中国人の場合と同様であるが、〈詫び〉に関しては日本人と同様であると言える。

3.3. 表現内容

3.1. で述べたように機能的要素の中では〈感謝〉〈詫び〉〈理由〉〈意志表明〉〈受け止め〉

に学習者と日本人の間で違いがみられた。ただし、用いられる表現は〈感謝〉と〈詫び〉ではいずれも「ありがとう」と「ごめんね（先生に対しては「すみません」）」が中心であり、大きな違いはない。そこで本節では〈理由〉〈受け止め〉〈意志表明〉で用いられる表現や内容について、順に検討する。

3.3.1. 〈理由〉の相違

質問紙調査の回答の中では、日本人は理由を述べる時、他人への迷惑を理由として挙げている。(8)と(9)をみられたい。ここでは理由を表している部分に下線を引いて示した。

(8) まあそうだけど、部活の人に迷惑かかるから今はいいや。

(9) 減らしてしまうと、他の人に迷惑が掛かってしまうので...、心配してくださってありがとうございます。

(8)は友人に対する断りで、(9)は先生に対するものである。どちらも下線で示した箇所のように、「他人に迷惑がかかること」を断りの理由として挙げている。

一方、学習者の回答をみると、他人への迷惑を理由として挙げている例はなく、(10)(11)のように、自分にとってそのことがいかに重要で必要かを熱心に述べる回答がみられた。

(10) 心配してくれて、ありがとう。でも部活にすごく興味があつて、やっぱりやりたい。

(対友人の回答)

(11) ありがとうございます。でも、学生部活動は私にとってとても大事なことです、
としてもやり続けたいのです⁽³⁾。ご心配くださってありがとうございます。

(対先生の回答)

このようにどちらも自分が積極的にやりたいと思っていることを述べている。

3.3.2. 〈受け止め〉の相違

次に〈受け止め〉について検討する。日本人の回答では〈受け止め〉を述べてから、「断り」つまり〈意志表明〉が続いている。そして〈受け止め〉は(12)のように「そうですね」「そうですね」という表現がほとんどである。したがって、これは実質的には断るための「前置き」になっていると考えられる。

(12) そうですね... ですが途中でなぜだすのも良くないと思いますし、最後まで頑張りたいので...。すみません。(対先生の回答)

一方、学習者の〈受け止め〉は（13）のように中国人と同じ使い方であった。

（13）はい、わかりました。部活が終わった後、辞めると考えます。心配していただいてありがとうございます。（対先生の回答）

（13）の「はい、わかりました」は、相手の助言を「理解した」「納得した」ことを示すものである。これは、〈受け止め〉に続く内容を見ると、よりはっきりする。この回答のように、特に対先生の回答では、結局、助言を断らず、聞き入れているものが目立った。これについては次節でさらに述べる。

3.3.3. 〈意志表明〉の表現の相違

最後に〈意志表明〉について検討する。〈意志表明〉の表現を類型化したものを表6に示す。

表6 意志表明の表現（人（％））

	日本人		中国人		学習者	
	友人	先生	友人	先生	友人	先生
否定表現の使用	4 (8.9%)	—	1 (3.4%)	—	5 (12.2%)	2 (5.6%)
「大丈夫」の使用	22 (48.9%)	17 (45.9%)	11 (37.9%)	1 (4.3%)	19 (46.3%)	6 (16.7%)
意欲を表明する	15 (33.3%)	9 (24.3%)	4 (13.8%)	1 (4.3%)	14 (34.1%)	16 (44.4%)
助言聞き入れの表明	3 (6.7%)	11 (29.8%)	11 (37.9%)	21 (91.3%)	1 (2.4%)	12 (33.3%)
その他	1 (2.1%)	—	2 (6.9%)	—	2 (4.8%)	—

日本人が友人に対しても先生に対しても、もっとも多く使っているのは「大丈夫」という表現である。「責任持ってやりたいので、大丈夫です」「好きでやってることだから大丈夫だよ」のように、「大丈夫」という表現で助言を否定、つまり断っている。

中国人も友人に対しては「大丈夫（没事的）」を用いるが、それと同程度の割合で「我会注意休息哒（休みを取るよう注意するよ）」のような助言を聞き入れる内容も述べている。さらに先生に対しては、91.3%という極めて高い割合で「我以后会在完成任务的基础上注意休息的（今後仕事を終わらせた上で休みを取るよう注意します）」のような助言を聞き入れるという内容を述べていた。

学習者の〈意志の表明〉をみると中国人の回答とも異なる。友人に対しては、学習者の回答は日本人の回答とよく似た傾向を示した。「大丈夫」が多く、それに「でも部活の仕事も頑張りたい」のように意欲を表明するものが続く。一方、先生に対しては、日本人とも中国

人とも異なっている。学習者は中国人と同様の、助言を聞き入れるものもあるが、その割合は中国人の三分の一程度であり、より多く、意欲を表明するものが用いられていた。

3.4. まとめ

以上、学習者の助言に対する断り行動を、機能的要素の使用、展開パターンと表現から分析した結果、基本的に中国人とほとんど同じ、つまり母語での断り行動と同じようにしていることが示された。ただし、以下の2点で学習者は中国人と異なる行動をとっている。

- ・〈詫び〉：中国人は友人にも先生にも〈詫び〉を用いないが、学習者は先生に対しては〈詫び〉を用いる。これは日本人と同様である。
- ・〈意志表明〉：友人に対しては日本人と同様の内容を述べる傾向を示すが、先生に対しては日本人とも中国人とも異なった傾向を示す。

このような学習者の断り行動は何に起因するのか、また、日本人は学習者の日本語での断り行動をどのように感じるのかを検討するため、面接調査を行った。

4. 面接調査の結果と分析

記述式調査の結果に基づき、日本人、中国人と学習者各10名（20代大学生の男女各5名）を対象に、半構造化面接調査を行った。面接では王・山本（2016）の手順に倣い、記述式調査と同じ場면을提示し、日本人と学習者の言語行動の相違点に着目して以下の3項目について自由回答を得た。

1. この場面では、〈詫び〉を言う必要があるか。それはなぜか。
2. この場面では、相手が目上の人（先生）か友人かで、言い方に違いはあるか。
3. 日本人は学習者の記述式調査の回答に対してどのように感じるか。逆に学習者は日本人の回答に対してどのように感じるか。

なお、質問の一部は王・山本（2016）と重複している。本研究では学習者の回答に焦点を当てるため、日本人・中国人の回答は必要に応じて王・山本（2016）から引用する。

4.1. 〈詫び〉の必要性和相手による相違

まず、質問1及び2の回答から、この場面での〈詫び〉の必要性について検討する。この質問に関しては、日本人は友人に対しては必要ないが、先生に対しては必要だという回答が多かった。以下は日本人の回答である。

【友人に対して】

- (14) 「ごめんね」は）要らない。相手に指示されているような気がするし、相手が何かするわけじゃないから申し訳ないという気持ちはない。
- (15) 「ごめんね」は）なくてもいい。言ってもいいけど言う必要性は感じない。

【先生に対して】

- (16) 目上の人の目にとまるほど心配されるということは、ちゃんとできていないということだから、「すみません」は必要。そんな状態になった自分が悪いので、申し訳ないという気持ち。
- (17) 心配されているのか、寝ていて怒られているのかわからないけど、とにかく「お詫び」が重要な感じ。

一方、中国人は10人全員が友達に対しても先生に対しても「相手に何も悪いことをしていないから、謝る必要がない」のように〈詫び〉は不要と回答した。先生に対しては「悪いことをしていない」に加え、次の(18)(19)のように、より明確に「感謝する」という意志が窺えた。

- (18) 先生には愚痴をこぼすことはない。必ず「ありがとう」を言う。謝罪の言葉を使わない。
- (19) 先生は、普段私のことを気にしてくれている、気を配ってくれているから、そう言っていると思う。だから先生に感謝の言葉を使う。

王・山本(2016)でも述べたように、これらの回答から日中ではこの場面の捉え方が異なっていることがわかる。中国人は「助言されること」をありがたいことと捉えているが、日本人はそうではない。友人と先生とでは「助言」の意味合いも異なっており、友人からはこの場面においては、助言をされることは特にありがたいことではないと捉えられ、先生から助言されることは、「迷惑をかけて申し訳ない」と捉えられている。では、この質問に対して学習者はどのように答えたか。(20)(21)をみられたい。

- (20) 「すみません」はいらない。「すみません」というと迷惑をかけた時に使う。この場面では迷惑をかけていない。
- (21) 日本語の影響がなければ、感謝の言葉を使う。日本語の場面だったら、「詫び」を言う。「詫び」を使うのは先生にご迷惑をかけたから。

(20) のように迷惑をかけていないので詫びを言うことはないと回答した人もいれば、(21) のように先生に迷惑をかけているから詫びを言うべきだと回答した人もいる。このように学習者には母国語の影響と日本語の影響がみられた。興味深いのは(21)のように、意識的に

使い分けをしている学習者である。このような意識はどのように習得されたのか。学習者に尋ねたところ、次のような回答が得られた。

- (22) 友達には言わないけど、先生に言う必要がある。先生はたくさん学生の中で私のことを言うということはやはり先生に心配をかけたということです。
- (23) 中国語と日本語と違うので、先生には言う必要があるかもしれない。先生に心配をかけたので。
- (24) 日本語で先生の立場に立ったら、(先生は学生に) 謝ってほしいと思うから。でも中国だったら、先生は(学生に) 謝って欲しくない、謝ることは全部言い訳みたいな感じですから。先生は理由を言って欲しいはずだから謝らない。

(22) (23) では先生と友人に違いがあることは認識されているが、〈詫び〉を言う理由として、「先生に心配をかけた」ことが挙げられている。さらに (24) では、日本と中国では先生が学生に望むものが異なるので、それに合わせて〈詫び〉を言ったり言わなかったりするという回答が得られた。(24) のように回答した学習者は2名であったが、2名はこのように捉える理由について、次のように述べている。

- (25) 日本に来て、他の学生がどうしてるか見た。それから自分もそうしたらいいかなと思って、そうしている。
- (26) (日本での日本語の) 授業で(先生が) そう言いました。漫画でそういう場面のもので、遅刻した学生が理由だけ言ったら先生がちっと怒った。そういうとき、最初に謝ったほうがいと習った。

(25) (26) の学習者は日本に留学した経験がある。留学経験の有無が影響したかどうか、今回の面接調査だけでは明確ではないが、その可能性が考えられる。また (26) では体験的に学んだのではなく、授業で学習したとも述べられている。この回答からは、このような異文化間の断り行動の相違が教室で学習可能であることが窺える。日本語教育で何を教えるべきか、考える手がかりとなりそうである。

4.2. 〈意志表明〉の内容

次に学習者はなぜ母語の場合と違う内容を言うのかについて尋ねた。アンケートの回答では、学習者は、友人には意欲を表明するよりも「大丈夫」を多く用いるという結果であった。しかし、インタビューでは、以下のように、中国語の場合と同様に、友人には意欲や理由をしっかりと述べるという回答が10名中6名にあった。

- (27) 友人に対して：「大丈夫」だけでは、簡単すぎる。もう少し理由を述べたほうがいい。
- (28) 友人に対して：意欲を述べる。
- (29) 先生に対して：意欲を言うより助言聞き入れのほうがいい。先生に言われると、解決する方法を言ったほうがいいので、助言の聞き入れを言う。

インタビューでアンケートと異なる回答が得られた理由として、アンケートはこの場面以外にも回答を求めたため、他の場面との比較の中で回答が変わった可能性があること、逆にインタビューはこの場面のみに焦点を当て、より意識的に回答を求めていることが影響している可能性が考えられる。これについては今後検討する必要があるが、インタビューの結果に従えば、学習者は断りの中心的要素である〈意志表明〉においては基本的に母語に準じた断り行動をしていることになる。そして、前節で述べたように〈詫び〉を付け足すことで、学習者にとっての「日本語らしい」断りをしていると考えられる。

ただし、次のように、日本語と中国語で違う言い方をするという学習者もみられた。

- (30) 中国語だったら友達には、「友達の心配してくれる心はよく理解してるけど、自分は辞めたくない」と言う。「私のために言ってくれてることはわかるわかる」ということと、でも自分の気持ちはちゃんと伝える。日本語だったら（前半部分は）言わない。自分の気持ちだけ。先生の場合は、先生は目上の人ですから（違う）。でも中国では自分の気持ちをちゃんと言いますから、先生にも言う。でも、成績に影響があるなら謝るかも。

(30) では日中で異なる断りをするのが明示的に述べられている。この学習者はどうして相手によって断りを変えるのか、これについては4.4. で再度、取り上げる。

4.3. 相手の行動に対してどのように感じるか

最後に三つ目の、日本人と学習者はそれぞれ相手の行動に対してどう感じるかについて述べる。日本人は学習者の〈意志表明〉の前向きな内容（例：自分にとって意味のあることだから頑張りたい）について、次のように回答した。

- (31) 勤勉な印象。いいと思う。悪い感じはしない。
- (32) 自分とは次元が違う。考え方が違うので引いちゃう感じ。
- (33) 友達だったら、「あ、そっか」という感じになる。そういう人は少ないような気がするけどそういう人なんだな、という感じに思う。

(31) のように特に否定的ではない回答もあったが、(32) (33) のように、違和感があり、

その友人に距離を感じるという回答が10名のうち7名にみられた。

また、〈気配り〉を最後に持つてくること、またその表現に対しては、次のような回答が得られた。

- (34) 無理してるんだろ、と心配になるけど、直接何かはしない。心配しないで、といわれると邪魔しないで、って感じがするから。
- (35) 親しかったら冷たい感じは受けないけど、親しくなかったら、冷たい感じがする。せっかく言ってあげたのに、みたいな感じ。

下線部のように、学習者の「ご心配なく」「心配しないで」という発話に距離を感じるようである。学習者は〈気配り〉として述べているのに、日本語の「心配しないで」「ご心配なく」では〈気配り〉として機能していないことがわかる。これは、さらに先生に対する場合に問題となる。

- (36) ご心配なく、はちょっとまずい感じ。「やりがいがある」という理由はわかると思うけど、言い方としてよくない。もうちょっと丁寧にいった方がいい⁽⁴⁾。
- (37) 自分が先生なら、(理由の内容には)「熱意のある子だな」と思って意欲的な感じがするけど「ご心配なく」という言葉は自分は使わない。その言葉は冷たい感じがする。心配無用、みたいに聞こえる。

一方、学習者は日本人の回答に特に違和感はない、という回答が目立ったが、中には違和感があるという回答もみられた。

- (38) 「大丈夫」とか「私がこのことが好きだから、大丈夫」だけ言うと余計なことをしてみたい。自分のことみたい。
- (39) 先生に対しては理由をもっとたくさん言うかも。

これらは、母語での断り行動の感覚に通じるものである。日本語での断り行動に馴染んでいないことが示されている。

4.4. 考察

王・山本(2016)で述べたように、この場面の捉え方が日中で異なっており、中国人は友人と先生からの「助言」をありがたいことと捉え、特に先生に言われると自分のことを気にしてくれているように思っているが、日本人は友人からはこのような「助言」を言われたく

ないと拒絶し、先生に言われると自分がきちんとできていないため心配をかけていると捉えている。これを踏まえ、質問紙調査の結果をみると、学習者の機能的要素の使用と展開パターンと表現は、中国人とほとんど同じであることがわかった。また面接調査からも学習者の助言場面の捉え方は母語の影響を受けていることが確認できた。

王・山本（2016）で指摘したように、日本人は私的領域への踏み込みについて敏感である。面接調査の回答には、学習者の日本語での断りにおいて、「意欲」を示されると「考え方が違うので引いちゃう感じ」と感じたり、〈気配り〉に対しても、「心配しないで、といわれると邪魔しないで、って感じがするから」のように領域侵入への拒否ととったりしており、それ以上踏み込まないようにするという反応が現れていた。一方、学習者からは、相手の領域を意識した回答は全くなかった。(30)のように、中国人に対して気持ちを伝えるが、日本人には言わないという学習者は一人いたが、これも相手の領域に入らないようにするため、というわけではなく、単に「気持ちを言うか言わないか」の問題と考えられているようである。他の学習者は、友人には意欲を示すと答えていたが、学習者にとって意欲を示すことは、「友人だからこそ、自分の気持ちをちゃんと伝える」のであり、友人への配慮である。〈気配り〉も意欲を示すことも、いずれも親しい友人であるからこそその行動であるが、この場面では学習者の意図に反する結果になっている。

また、先生に対しても、丁寧な語形をとっていても日本人にとっては反論しているようで、印象が悪くなる場合があることも示された。

- (40) ありがとうございます。でも、学生部活動は私にとってとても大事なことですので、としてもやり続けたいのです⁽⁵⁾。ご心配くださってありがとうございます。
- (41) 大学では、学業も仕事もどちらも学生の成長に役たつと思いますが、仕事が大変ですけど、続きたいです。その同時に、学業も必ず大切にします！ ご心配なく！

特に「ご心配なく」という〈気配り〉の部分が助言を拒否しているように聞こえることは問題である。学習者は丁寧に言っているつもりであるので、これも意図に反する結果になっている。日本語教育においては、学習者に語形の丁寧さは教えるが、それだけでは不十分であることがわかる。一方で、授業で学んだことによって適切な理解ができている学習者もいた。場面の捉え方の違いを踏まえて教えることが必要であり、また効果的であると言える。

5. おわりに

本研究では、中国人日本語学習者の「助言」に対する断り行動を分析した。学習者にとって、日本人から「助言」される場面は少なくないと考えられる。その際、ここで示したよう

に学習者の意図に反して好ましくない印象を日本人に与えることは、学習者にとってはもちろん、日本人にとっても利益に反する。ただし、今回は限られた場面の設定での分析であるので、今後、この場面に限らず、ほかの場面でも日本人と中国人それぞれどのように捉えているかも検討する必要があるだろう。そして今後の日本語教育において、より良い関係を築けるよう、場面の捉え方を踏まえた教育に取り組みたい。

注

- (1) 「← 〈感謝〉 →」は、〈感謝〉が、特に断りの先頭や末尾に偏ることなく回答のどの位置にも現れうることを示す。以下同様とする。
- (2) 学習者の回答には誤用もみられるが、意味の理解に支障がなければ基本的にそのまま載せ、必要があれば注で補うこととする。
- (3) 「どうしてもやり続けたいのです」の意だと思われる。
- (4) ただし、具体的にどのように言うかは思いつかないと述べている。
- (5) 「どうしてもやり続けたいのです」の意だと思われる。

参考文献

- 王源・山本裕子（2015）「親しい友人に対する断り行動の日中対照研究」『人文学部研究論集』第34号，pp. 19-35，中部大学人文学部。
- 王源・山本裕子（2016）「日本人と中国人は場面の捉え方がどのように異なるか―「助言」に対する断り行動を中心に―」『日本語教育研究』第62号，pp. 82-99。
- 熊谷智子・篠崎晃一（2006）「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」『言語行動における「配慮」の諸相』pp. 19-54。
- 蒙韞（2010）「日中断りにおけるボライトネス・ストラテジーの一考察―日本人会社員と中国人会社員の比較を通して―」『異文化コミュニケーション研究』第22号，pp. 1-28。
- 山本裕子・王源・本間妙（2015）「中国人日本語学習者は親しい友人間における『配慮』をどのように捉えているか」『社会言語科学会第35回大会発表論文集』pp. 152-155，社会言語科学会。

（2016年10月24日 受理）